

普及活動情勢報告（平成31年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ミョウガの栽培技術の向上を支援 ～J A土佐くろしお 現地検討会を開催～



現地検討会の様子

2月12日～3月7日にかけてJ A土佐くろしおミョウガ部会を対象に現地検討会を4地区5ほ場で開催し、136名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは、ハウスの温湿度データを基に、近年の減収要因や改善のための今後のハウス管理について情報提供を行いました。また、生産安定に向け測定機器や細霧装置の導入への補助事業の活用についても情報提供を行いました。

昨年の減収要因について理解を示す農家や、飽差と湿度の違いを質問する農家など活発な情報交換の場となりました。

厳寒期を振り返って ～J A土佐くろしおニラ部会中間検討会～



中間検討会の様子

3月1日、J A土佐くろしお管内のニラ生産者19名参加のもと、同J A集出荷場で中間検討会を行いました。

農業改良普及課からは、厳寒期に発生する白斑葉枯病の対策および電照の抽台リスクについて情報提供を行いました。白斑葉枯病については、ニラの草丈が20cmを越えると株元に薬剤が届きにくくなり防除効果が低下すること、夜間加温により湿度100%状態を中断することで発病を抑えられることなど、薬剤だけでなく結露を防ぐ湿度管理による対策の重要性を説明しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してニラの安定生産に向けた支援を行っていきます。

キュウリの安定生産に向けて ～J A土佐くろしお 現地検討会の開催～

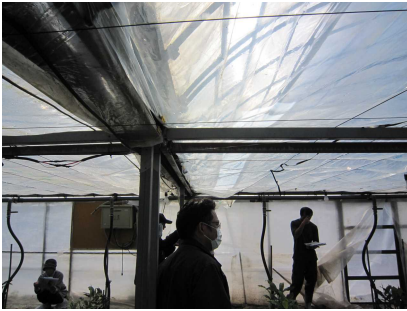


説明を聞く生産者

3月19日、J A土佐くろしおキュウリ部会の現地検討会が行われ、生産者8名が参加しました。農業改良普及課からハウス内環境の見える化と、品種比較およびI P M実証試験の途中経過について情報提供しました。実測値を見せながら、環境測定装置を用いて測定することで、最高最低温度計だけではわからない温湿度や炭酸ガス濃度の推移がわかることなど、測定するメリットについて説明しました。生産者は実際にハウス内にある環境測定装置のモニターを見ながら見える化することの大切さを実感していました。

農業改良普及課は、今後も生産者の技術向上、キュウリの安定生産にむけて支援を行っていきます。

ミョウガの収量アップを目指して！～J A津野山ミョウガ部会が栽培講習会を開催～



現地講習会の様子

2月28日と3月4日に、J A津野山ミョウガ部会が梶原町と津野町の現地ほ場で、栽培講習会を開催し、21人の生産者が参加しました。

農業改良普及課は収量を増やし安定した収量を得るための重要なポイントや日射量が増えてくる今後の栽培管理について説明しました。

参加者からは「いつまでにしっかり樹を作らなければならないか、今まで漠然としていたことがよく分かった」等の感想が聞かれ、どこを見たらいいのか早速実践している生産者も見られました。

農業改良普及課は今後もJ A等関係機関と連携して、津野山地域におけるミョウガの高品質な生産に向けて支援します。

春・夏野菜の栽培に向けて ～直販所「津野町ふるさとセンター」勉強会の開催～



講習会の様子

2月22日、J A土佐くろしお葉山支所、25日に津野町西庁舎において「津野町ふるさとセンター」生産者勉強会を開催しました。

勉強会には両日で生産者35人が出席し、農業改良普及課から土づくりや土壌測定的重要性、農薬使用時の作物登録等の注意点について説明しました。また、農産物直販所安全安心ネットワーク連絡会で協議・改訂した農薬使用履歴簿の内容や記載方法を説明し、農薬事故防止について周知しました。

農業改良普及課は、栽培研修会を通して、改訂した農薬使用履歴簿の活用を進め、直販所における安全安心な農産物の周年安定出荷を支援していきます。

農業現場での『カイゼン』の取り組み ～選花作業を分業化して効率アップ～



選花作業の分業化を実証

3月6日、20日、管内の花き栽培経営体の作業場で『カイゼン』の手法を用いて、選花作業の効率化を図る現場実証を行いました。現状1人完結で行っていた選花作業を工程毎に作業者を配置し、流れ作業で行いました。当日はモデル経営体との現場での打合せを重ね、改善を加えながら実践しました。農業改良普及課はどれくらい効率化できたかを客観的に把握できるよう取組中です。モデル経営体も試行錯誤しながらですが、作業改善へ意欲的に取り組んでいます。

農業改良普及課は、今後もモデル経営体の『カイゼン』に向けて支援をしていきます。

GAP点検による改善状況を検討 ～J A土佐くろしお集出荷場版GAP点検の実施～



集出荷場のGAP点検の様子

3月20日、J A土佐くろしお販売課、営農指導課と農業改良普及課は、J A土佐くろしおの3集出荷場で、集出荷場版GAP点検を合同で行いました。

今年度、専門家からのアドバイスで、「点検が単に点検項目ができていないか、できていないかの〇×をつけることだけになっていないか。できていないことがあればなぜできていないのか。できていないことをどうやって改善していくのか」との助言を受け、現場で改善方法を検討しました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関とともに集出荷場のGAP点検活動を行い農産物事故ゼロを目指し支援していきます。

関係者の意見を踏まえた普及活動に取り組むために ～第2回普及推進協議会の開催～



推進協議会の様子

2月26日、農家、J A・市町など関係機関15名の参加をいただき、第2回普及推進協議会を開催しました。

産業振興計画に拡充内容の説明の後、平成30年度の活動実績について、重点プロジェクト及び総合課題について説明を行うとともに、次年度の普及計画（案）の概要について説明しました。

質疑応答と意見交換では、普及活動の目標値の考え方に対する提案や、地域の水田農業を継続するためには、農家・J A・行政が連携して取り組む必要があるなど、次年度の普及計画（案）で取り組む内容などについて、様々な意見をいただきました。

また、今年度から新たに取り組みを始めた「カイゼン」についての情報提供を行い、幅広い意見交換につながりました。

農業改良普及課は、今回の意見を普及活動に活かしていきます。

樹形を再生しよう！ ～ユズの剪定講習会～



剪定講習会の様子

3月7日、J A高知県津野山営農経済センター管内のユズ生産者23名と、津野町、梶原町の現地ほ場で剪定講習会を行いました。

地域のユズは馬路村との契約栽培を開始して10年が経過しましたが、近年では樹の成長に剪定や整枝が間に合わず、ホウキ状の樹が多くなってしまった園地も見られます。

日浦専技の剪定の実演は、参加者と作業を丁寧に確認し、議論しながら進められました。参加者からは、とても勉強になった、剪定を行えばまだ樹形は再生できるんだ、ぜひ帰って挑戦したいとの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

歴史ある茶産地の維持を誓う！ ～津野山茶生産組合 50 周年記念大会を開催～



取り組み報告を行う
地域おこし協力隊

3月15日、J A高知県津野山営農経済センター管内の津野山茶生産組合が50周年記念大会を行いました。

当日は13時から行われた総会に引き続き、15時から50周年記念大会が行われ、室町時代以前から続く「つの茶」の歴史の紹介、「つの茶」の品質の良さに惚れ込んで取り扱ってくださる取引業者の挨拶などがありました。さらに、長野県から地域おこし協力隊として荒廃茶園の再生に取り組む力強い発表もあり、生産者は時代を担う新しい動きを感じました。

農業改良普及課は、30年度に茶園再生のために中切りをした際の生育や病害虫の発生などを調査しました。調査結果はとりまとめて関係者で共有し、31年度春に向けての作業時の参考にする予定です。